

# 億太郎死す

しかし、億太郎の体は、それまでの心労から大きく蝕まれており、昭和4年（1929）12月、仕事で大阪に来ていた時に倒れて大阪病院に入院し、暮れもおしこまつた29日に、多くの人たちの祈りも届かず天に召されていったのです。偶然にも、綱治と同じ56才でした。

億太郎の葬儀は、昭和5年（1930）1月9日、町葬（※89）として、留萌小学校（現在の留萌小学校のグラウンド側にあった）で行われました。

※89 町葬

町が主催者となって行う葬儀。

こくべつしき  
また、告別式で各会代表から多くの弔辭(※90)や弔電  
ちょうでん

(※91)がよせられたのは、言うまでもありません。



ちょうそう  
留萌小学校での億太郎の町葬の様子

※90 弔辭

こじん  
故人と関係の深かった人が、故人を弔うために葬式で述べる文章。

※91 弔電

こじん  
とむら  
故人を弔う電報。

この日は、年末から何日も続いていた大吹雪もおさま  
り、雲一つない晴天となり、五十嵐邸から式場の留萌小  
学校までの道には、多くの町民が見送りに出たそうです。



そうれつ  
億太郎の葬列



億太郎さんは、留萌の人たちに  
とても愛されていたんだMO～！

その4年後、ようふつなじ養父綱治と億太郎、五十嵐家二代の命をかけた留萌築港は、ちっこう連絡鉄道の整備れんらくせいびと共にやり遂げられました。

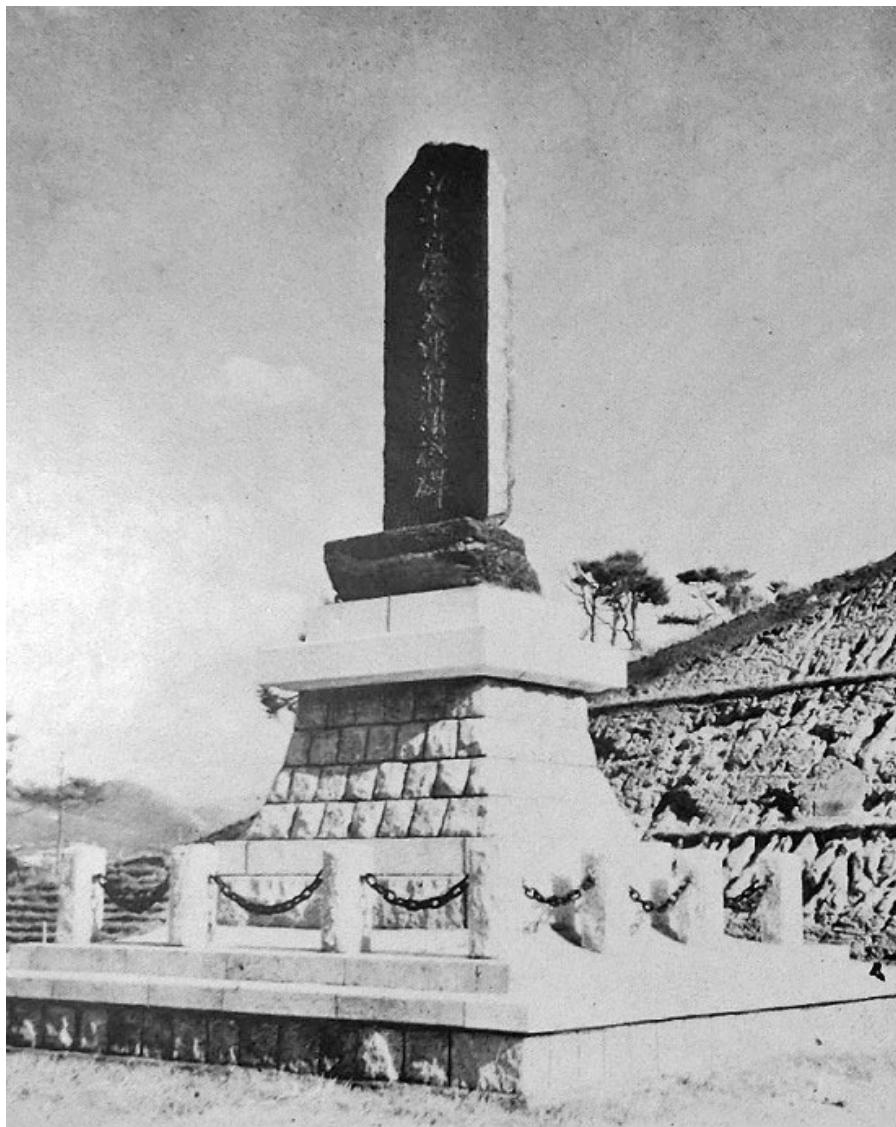
つなじ綱治、億太郎親子が築いた留萌港の利用は、その後、日本が戦争へと突き進んでいったために落ち込んでいましたが、戦後やっと、昔きずの賑わいを取り戻しました。

昭和25年(1950)11月3日文化の日に、故五十嵐億太郎を第一号の「市制特別功労者」として表彰ひょうしょうし、昭和40年(1965)には「名誉市民めいよしみん」の称号しょうごうを贈っています。

また、昭和28年(1953)10月には「頌徳碑しようとくひ」を見晴公園内に建立し、昭和43年(1968)には億太郎邸ていにあった神社を壊し、「湊神社(※92)」を新築し、億太郎を神としてお祀りしました。

### ※92 湊神社

社殿しゃでんの老朽化ろうきゅうかにより、ご神体は留萌神社じんじやに移したため、現在はない。



五十嵐億太郎頌徳碑  
しううとくひ